

静岡県の民謡再発掘とその現代的再創造に関する調査研究

ーアーカイヴスからアートへー

(研究課題番号16602004)

平成16年度～17年度科学研究費補助金

基盤研究 (C) 研究成果報告書

平成18年3月

研究代表者 柳 沢 信 芳

静岡大学教育学部教授

Research on Refinding and Re-creation of Folk Songs in Shizuoka Prefecture:
Archival Materials to be an Art

Japan Society for the Promotion of Science Grant-in-Aid no. 16602004

Grant-in-Aid for Scientific Research (c), 2004-2005
March 2006

Head Investigator: YANAGISAWA, Nobuyoshi
Professor, Shizuoka University

目 次

はしがき	5
研究組織	7
交付決定額	7
研究発表一覧	8
カラー写真	
世界各地の博物館に眠る楽器	12
産み出され人の手に渡った楽器	13
創造・再創造されるさまざまな民族芸能	14
ストリートやオープン・スペースに拡張する都市の音楽シーン	16
茶文化を見る・知る・味わう	17
研究発表とディスカッション	20
新たな表現によるアートをめざして	22
I. 視察調査	
1. 民謡や楽器のアーカイヴスに関わる先行事例	24
2. 民謡の再創造に示唆を与える先行的施設	27
3. 現代的な奏演に関する施設と先行事例	30
(1) 施設	30
(2) 先行事例	33
(3) ストリートパフォーマンス	36
(4) 現地調査	37
4. 茶文化・茶歌に関する施設	37
(1) 日本の茶文化関連施設	37
(2) 韓国の茶文化関連施設	39
(3) 台湾茶関連等施設	40
(4) ヨーロッパ、アメリカの茶文化関連施設	42

II. 聞き取り調査

1. 聞き取り調査の概要 45
2. 朝比奈とし江氏への調査記録 46
3. 前島重雄氏への調査記録 48
4. 栗田米一氏への調査記録 50
5. 落合宏雄氏への調査概要 57

III. 実践活動

1. 懇話会 60
2. シンポジウム「静岡の茶歌再創造と現代的奏演―市民参加型をめざして―」 . . 61
3. イベント 82
4. 講習会 87
5. その他学会参加等 87

IV. 課題と展望

1. 《茶歌ヴァリエⅡ》の創作について 91
2. 《茶歌ヴァリエⅠ》および《茶歌ヴァリエⅡ》の演奏にあたって 93
3. 「民謡」と「茶歌」概念の創造と再創造 95

V. ご協力者の声

1. お茶の歌と茶摘み踊り 98
2. 民謡収集研究を通じて 99
3. 芽吹く^{ころ}季節に 100
4. 《ウクレレ茶歌》の作詞・作曲について 101
5. 箏のご縁で 102
6. 創造へのアプローチ―箏曲への編曲を通して― 103

楽譜 茶歌ヴァリエⅡ 作曲 大槻寛 108

謝辞 115

はしがき

本研究は、地元民謡の伝承が衰退するなかで、過去の調査による貴重な録音資料の保管状態や、それらの一部が採譜・出版されているものの実際にはほとんど活用されていないという現状に対して、改善の必要性を感じた代表者・柳沢信芳が大槻寛と小西潤子に呼びかけて立ち上げたプロジェクトである。それぞれの専門性（大槻が作曲、柳沢がピアノ演奏、小西が音楽学）を生かすことで、過去に採取された民謡を教育現場や地元産業界に還元できるようなかたちに再創造し、音として表演することによってみんなに親しまれるものとし、地域活性化のための資源とすることを目論んだ。

その具体的な取組みとしては、1) 現在の静岡県の民謡伝承実態を調査し、1980年代に採集されたテープ音源と比較研究するとともに保管整理すること、2) その中から音楽的素材を発掘し、現代に適合した民謡として再創造すること、3) 教育現場での援用が容易な表演技術を開発しその表演を行うことを掲げた。すなわち、1980年代に採集された静岡県の民謡素材を現代のニーズに合わせて再創造し、公開ワークショップで提示することで、アーカイブス（資料保管所）に埋もれた民謡を生きた音としてアート化し、地域文化の活性化と発展をめざすことを目的に、平成16年から2年間にわたって遂行してきた。

既存の静岡県内の本格的民謡調査資料としては、静岡県教育委員会文化課編『民謡緊急調査報告書 静岡県の民謡』（1986年、静岡県教育委員会文化課編）がある。この約3000曲からなる歌はカセットテープに収録され、一部は『静岡県こころのうた』（1996年、静岡県教育委員会文化課編著）に採譜とともに再録されている。カセットテープは公共図書館に保存されているが、地域住民が手軽に借り出せるものではなく、こうした調査結果がその後活用された形跡はなかった。

このように貴重な音源がありながらも、静岡県を含めたわが国の大部分の地域では民謡の継承が断絶したり危機に瀕していたりするのが現状であり、地元音楽の担い手が育成される土壌がないといえる。この1つの原因として、収集された民謡が生きた音として地域住民の耳に届く機会が限られてきたからではないだろうか。また、世代を超えて民謡の魅力を訴えるためには、過去の録音をそのまま復元するだけでは十分であり、地域の伝承実態に合った研究方法の開発と民謡の新たな活性化が望まれるのではないだろうか。そこで、過去の貴重な音源や現況調査から得た民謡素材を生きた音楽として現代的に再創造することで、調査結果としての民謡を音楽的に表演することによって直接地域住民の耳に還元できないかと考えたのである。

一方で、1980年代後半以降のワールドミュージック現象以降、ローカルな民謡がグローバル市場へと進出する事例が世界的に増大した。たとえば沖縄の島唄を基礎とするポップスは、2000年代以降も若者に人気がある。これに伴い、民族音楽学ではポピュラー化した民謡の研究も盛んになった。しかしながら、こうした先行事例は民謡が継承されている地域において、地元（あるいは外部の）音楽の担い手が自発的に行ったものと位置づけられ

る。民謡素材の再創造には、地元・静岡県の人々からの抵抗がありうることも十分に考慮する必要があった。

しかし、現在静岡県の民謡として全国的に知られる《ちゃつきり節》は、北原白秋作詞・町田嘉章作曲の創作民謡（1927年）であった。アートとしての民謡を再創造する行為は、きちんとしたプロセスを経て地元の人々の合意を得ることができれば地域文化の活性化に寄与できるはずだと考えた。《ちゃつきり節》以後4分の3世紀を経た現代においては、地域住民の創作と表演に対するニーズが変化していることは明らかである。地元国立大学の音楽専門研究者を中心に、教員養成課程の学生、学外の専門家、地域住民がワークショップの機会を利用して、相互作用しつつ地域の音楽文化の創造と発展をめざすことによって、地域から民謡を再発信できる可能性がある。

地域文化の発展が望まれる昨今、本研究によって再提示された民謡を通じて、若い世代も含む静岡県民が地域文化への関心を高める機会となるのみならず、他道府県における民謡調査資料再生の際の先駆的なモデルとなるのではないかと考えた。また、この調査研究に教員養成課程学生が積極的に参加することで、将来民謡によって学校と地域を結ぶ人材育成が見込まれる。このような発展の可能性を確信し、民謡資料（音および報告書）の再検討と聞き取り調査による伝承の現況把握によって、民謡素材を発掘するとともに、内外におけるアーカイブスや伝統音楽文化の発展的創造の発信基地の視察、参考となる演奏会やCD、ビデオ等録音資料を通じて、再生した作品の表演にふさわしい音楽的表現方法の開発から手がけていった。そして、洋楽器・和楽器の演奏専門家や学生の意見を取り入れ、公開ワークショップで演奏を披露し、地域への還元を試みると同時に地域住民からの評価の場としたのである。

計画を遂行するなかで、対象を「静岡県の民謡」から、茶節、茶もみ唄、茶摘み唄等の「茶歌」に絞りこむことにした。これは、茶業がかねてから県内の産業や文化と大きく関わってきたこと、また昨今では「世界お茶まつり」が開催されるなど、県内で新しい「茶文化」を創造する活動が盛んになっていることを受けたものである。「茶文化」全体の中で「茶歌」を位置づけることにより、同一地域内における過去から現在に至る伝承の変化とその社会的要因について、とらえやすくなる。地元の産業界や文化振興と連携しつつ、「茶歌」の再創造と新しい奏演様式を開発することにより、地域の活性化に直結しかつ学校における総合的学習の時間を使つての郷土学習などに還元できると考えたのである。

さらに、地元音楽関係者などを交えた懇話会および音楽表現学会におけるシンポジウムの開催により、市民参加型の茶歌再創造と現代的奏演という新しい試みを展開した。また、その経緯を新聞やラジオによって広く周知することにより市民の関心を呼ぶことができたのみならず、さらなる協力者を得ることができた。

以上の調査研究は、代表者・柳沢が中心となり、協力者・大槻と小西を交えた綿密な打ち合わせや議論を頻繁に行いながら遂行してきたものである。それゆえ、基本的にすべての過程において3者が関わってきたといえるが、それぞれの専門性や既存の知識を生かした視察や学会発表も合わせて行ってきた。たとえば、柳沢はピアノ演奏家の立場から新し

い民謡の奏演に必要な技術を研鑽したことはもちろん、ヨーロッパ、アメリカを中心とする音楽事情の視察、演奏会、ストリートパフォーマンスの調査、およびヨーロッパの最も長い伝統を受け継ぐベーゼンドルファー社製のピアノを使っの演奏研究を分担した。大槻は、作曲家の立場から民謡素材をもとに《茶歌ヴァリエ》を創作した。それに際して、以前から研究対象としていたスペインを訪問し、民謡の再創造とパフォーマンスに関する先行事例に関する調査を行った。また、小西は音楽学の立場からミクロネシアや小笠原における先行事例を調査研究し、シンポジウムや学会における口頭発表や文章を取りまとめる作業に従事した。

調査実施項目は、内容から大きく 1. 民謡のアーカイヴスや再創造などに関わる施設、演奏、芸能等の先行事例に関する視察調査、2. 茶文化関係者への聴き取り調査、3. シンポジウム、研究発表などの実践活動に分けることができる。以下では、これらに加えて 4. 課題と展望、資料としての《茶歌ヴァリエⅡ》楽譜を加え、この順にしたがって調査内容を整理する。一般にこういう類の調査報告書は、研究論文を寄せて編集したものであることが多い。しかし、「市民参加型」を目標にすえた本調査研究においては、調査にかかわってくださった多くの方々の生の声をなるべく反映させたいと考えた。そこで、通常では掲載されにくい聞き取り調査やシンポジウムなどの諸氏による発言や関係者にご依頼したエッセイを組み込むことにした。これにより、茶歌再創造に対する人々の思いを記したいと考えたつもりである。なお、これらの掲載については、あらかじめ許可を得ていることを付け加えておく。

研究組織

研究代表者 : 柳 沢 信 芳 (静岡大学教育学部教授)
 研究分担者 : 大 槻 寛 (静岡大学教育学部教授)
 研究分担者 : 小 西 潤 子 (静岡大学教育学部助教授)

交付決定額 (配分額)

	直接経費	間接経費	合 計
平成16年度	2,700,000	0	2,700,000
平成17年度	1,200,000	0	1,200,000
	3,900,000	0	3,900,000

研究発表一覧

(1) 学会誌等

- ①柳沢信芳・大槻寛・小西潤子「静岡県の民謡再発掘とその発展的創造、現代的奏演に向けての調査研究報告」『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』第 55 号 2005 年 3 月 pp.267～272
- ②柳沢信芳・大槻寛・小西潤子「静岡県の茶歌再創造と現代的奏演—市民参加型をめざして—」『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』第 56 号 2006 年 3 月 pp.305～312
- ③小西潤子「音楽身体表現集団 The Pacific Eels の挑戦—『グラマーな身体』に代わる芸術活動への道」『音楽表現学』第 2 号 2004 年 11 月 pp.23-34
- ④小西潤子「第 9 回太平洋芸術祭における小笠原とパラオの交流—互惠性を越えた文化の担い手と研究者との協力関係をめざして」『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』第 55 号 2005 年 3 月 pp.49～62
- ⑤小西潤子「歌と踊り—伝統の創造と継承—」『ミクロネシアを知るための 58 章』明石書店 2005 年 11 月 pp.179-182
- ⑥小西潤子「研究者とは何者か？」『季刊誌 i-Bo』第 15 号 2005 年 9 月 pp.24～25
- ⑦小西潤子「行進踊りと日本語混じりの歌—ミクロネシアの民俗芸能に見る日本の植民地教育の影響に冠する歴史的研究」『静岡大学教育学部研究報告（教科教育学篇）』第 35 号 2005 年 3 月 pp.97～111
- ⑧Konishi, Junko “Ogasawaran dancers’ encounter with Pacific dances: a report from the 9th Pacific Festival of Arts in Palau”, Refereed papers from the 1st international small island cultures conference, 1, 2005, pp. 99-107
- ⑨Konishi, Junko “The global songs from Bonin: the origin and dissemination of officially recognize songs of the Ogasawara islands”, 『音楽学とグローバリゼーション』 2004, pp.472-475
- ⑩Konishi, Junko “Performance and Mediation: A historical view of traditional music and dance in the Festivals of Pacific Arts 1972-2000” 『国立民族学博物館地域研究企画交流センター報告書』第 9 号 2006 年 3 月 pp.111-132

(2) 口頭発表

- ①柳沢信芳・大槻寛・小西潤子「シンポジウム：静岡の茶歌再創造と現代的奏演—市民参加型をめざして—」日本音楽表現学会第 3 回大会 2005 年 7 月 2 日 静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ交流ホール
- ②柳沢信芳・大槻寛・小西潤子 静岡県茶文化普及啓発事業「静岡音楽茶^サロン」世界緑茶協会主催 2005 年 11 月 17 日 静岡県コンベンションアーツセンター・グランシッ

プ交流ホール

- ③小西潤子 「音楽身体表現集団 The Pacific Eels の挑戦—『グラマーなボディ』に代わる芸術活動をめざして—」 日本音楽表現学会第2回大会 2004年6月6日 北海道教育大学札幌校
- ④小西潤子 「ミクロネシアの行進踊りと日本語の歌について」 太平洋芸術祭と南洋踊りに関する研究会 2004年9月12日 小笠原村父島地域福祉センター
- ⑤ Junko Konishi “Special workshop for Palauan-Ogasawaran dance communication” Study Group on Music and dance in Oceania meeting, the International Council for Traditional Music 2004/08/02 Ngarachamayong, Palau:Cultural Center
- ⑥Konishi, Junko “Ogasawaran dancers’ encounter with Pacific dances: a report from the 9th Pacific Festival of Arts in Palau”, The 1st international small island cultures conference, 2005/02/07,
- ⑦Junko Konishi & Takuya Nagaoka “A consideration of the origins and diffusions of the Micronesian marching dance based on historical documents and oral traditions from Pohnpei Island and Mwoakilloa Atoll” International Council for Traditional Music 2005/08/08 Sheffield, U.K.: Sheffield University

(3) その他

[1] 作曲・編曲発表

- ①大槻寛 ピアノ作品《茶歌ヴァリエ I》(ピアノ演奏:柳沢信芳) 研究懇話会 2004年12月11日 静岡大学
- ②大槻寛 ピアノ作品《茶歌ヴァリエ II》(ピアノ演奏:柳沢信芳) 日本音楽表現学会第3回大会 2005年7月2日 静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ交流ホール
- ③大槻寛 ピアノ作品《茶歌ヴァリエ II》(柳沢信芳によるピアノ演奏のビデオ上演) 静岡大学茶歌プロジェクト・音楽パフォーマンス 2005年10月29~30日 静岡市立日本平動物園
- ④大槻寛 サクソフォン4重奏作品《茶歌ヴァリエ2》(ピアノ演奏:柳沢信芳) 静岡県茶文化普及啓発事業「静岡音楽茶^サロン」世界緑茶協会主催 2005年11月17日 静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ交流ホール

[2] 演奏

- ①柳沢信芳 ピアノ演奏《茶歌ヴァリエ I》《茶歌ヴァリエ II》 日本音楽表現学会第3回大会 2005年7月2日(土) 静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ交流ホール

- ②柳沢信芳 ピアノ演奏《茶歌ヴァリエ II》 静岡県茶文化普及啓発事業「静岡音楽茶^サロン」 世界緑茶協会主催 2005 年 11 月 17 日 静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ交流ホール

[3] 報告書

- ①柳沢信芳・大槻寛・小西潤子 「新しい芸術文化創出による地域活性化支援―「茶歌」で大学と市民をつなぐ」2005 年度全学競争的配分経費Ⅱ型（研究代表者：静岡大学人文学部・野方宏）『少子高齢化社会の地域設計報告書』 静岡大学 2006 年 3 月 pp.105～113
- ②小西潤子 「技を知る一音と音楽による地域社会とのコミュニケーションを通じて」2005 年度全学競争的配分経費Ⅱ型（研究代表者：静岡大学教育学部・小西潤子、松永泰弘、山下薫子）『技を媒介とした学びに熱中する子どもの育成プログラム報告書』 静岡大学 2006 年 3 月 pp.17～28
- ③小西潤子 「市民参加型イベントの創出―健康文化交流館、日本平動物園、世界緑茶協会との協働―」『平成 17 年度大学活性化支援経費（学部長裁量経費）プロジェクト報告書』 静岡大学教育学部 2006 年 3 月 pp.85～88

カラー写真

世界各地の博物館に眠るたくさんの楽器



1. 東南アジアの楽器コーナー
(2005-9-8 於：ボストン美術館 撮影：柳沢信芳)



2. 台湾先住民族の鼻笛
(2005-2-24 於：順益台湾原住民博物館 撮影：柳沢信芳)



3. 日本コーナーに展示された邦楽器

(2005-9-8 於：ボストン美術館 撮影：柳沢信芳)



4. ヨーロッパから渡った楽器のコレクション

(2005-9-8 於：ボストン美術館 撮影：柳沢信芳)



5. 民族楽器トンコリと衣装

(2004-6-7 於：アイヌ文化研究所 撮影：大槻寛)



6. 16世紀の小パイプオルガン

(2004-10-8 於：モンセラート修道院 撮影：大槻寛)



7. 1899年のスタインウェイ社製アップライトピアノ
(2005-9-2 於：ニューヨーク市立博物館
撮影 柳沢信芳)



8. 飲茶店に設置された民族楽器
(2005-2-23 於：台北市茶楽園
撮影：柳沢信芳)

産み出され人の手に渡った楽器



9. ムックリ製造工程
(2004-6-8 於：白老ポロトコタン
撮影：大槻寛)



10. N.Y. ベーゼンドルファー支店長夫妻と柳沢
(2004-9-10 於：N.Y. ベーゼンドルファー
撮影：同社スタッフ)



11. アイヌ民族楽器ムックリとトンコリ演奏
(2004-6-5 於：北海道教育大学札幌校 撮影：大槻寛)



12. ピアノの音を再生する柳沢
(2004-8-25 於：ウィーン、ベーゼンドルファーホール 撮影：同社スタッフ)

創造・再創造されるさまざまな音楽パフォーマンス



13. アイヌ民謡と踊り
(2004-6-8 於：白老ポロトコタン 撮影：大槻寛)



14. 民謡再創造と地域活性化の試み
(2004-10-30 於：東予市民会館 撮影：大槻寛)



15. パプアニューギニアの踊り
(2004-07-25 於：パラオでの太平洋芸術祭
撮影：小西潤子)



16. 復興されたパラオの伝統的な踊り
(2004-07-27 於：パラオでの太平洋芸術祭
撮影：小西潤子)



17. 戦前に創造されたパラオの踊り
(2004-07-27 於：パラオ「太平洋芸術祭」
撮影：小西潤子)



18. 踊りのスタンバイをするトンガ教育大学
グループ (2004-07-27
於：パラオ「太平洋芸術祭」 撮影：小西潤子)



19. 中世の伝統を受け継ぐオペレッタ
(2004-10-12 於：サラゴサ「ピラール祭」
撮影：大槻寛)



20. 伝統的民族舞踊ホタの群舞
(2004-10-12 於：サラゴサ「ピラール祭」
撮影：大槻寛)



21. 民謡を歌いながらピラールへ献花する人々
(2004-10-12 於：サラゴサ「ピラール祭」
撮影：大槻寛)

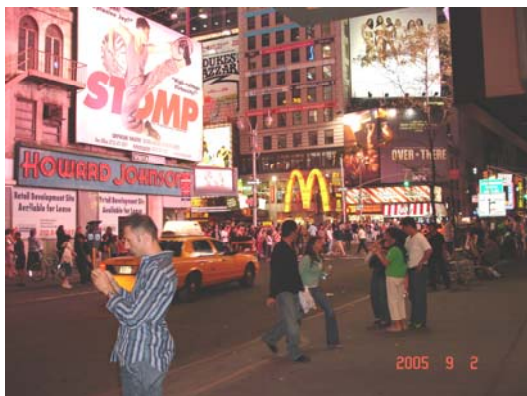


22. 伝統的衣装で民謡を歌いながら献花の行列
(2004-10-12 於：サラゴサ「ピラール祭」
撮影：大槻寛)

ストリートやオープン・スペースに拡張する都市の音楽シーン



23. 「平和の集い」(2005-9-11 於：ストロベリーパーク 撮影：柳沢信芳)



24. 夜のブロードウェイ繁華街
(2005-9-2 於：ニューヨーク
撮影：柳沢信芳)



25. たて笛を演奏するベネズエラの男性
(2005-9-1 於：ニューヨーク、タイムズ
スクウェア 撮影：柳沢信芳)



26. アクロバティックなパフォーマンス
(2005-9-6 於：ボストン旧市街地
撮影：柳沢信芳)



27. バラライカのパフォーマンス
(2004-8-24 於：ウィーン 撮影：柳沢信芳)

茶文化を見る・知る・味わう



28. 牧ノ原開墾旧幕臣大草氏ご先祖
(2004-07-18 於：大草省吾氏宅
撮影：大槻寛)



29. 東アジアの茶栽培と文化
(2004-07-18 於：金谷お茶の博物館
撮影：大槻寛)



30. 韓国茶産地展示パネル
(2004-12-14 於：雪緑茶展示館
撮影：大槻寛)



31. 済州島緑茶畑
(2004-12-14 於：雪緑茶展示館展望室
撮影：大槻寛)



32. 高麗青磁茶器 (12世紀)
(2004-12-14 於：雪緑茶展示館 撮影：大槻寛)



33. 済州島特産「五味茶」の熟成壺
(2004-12-14 於：済州島 撮影：大槻寛)



34. 「アメリカの古き良き時代コーナー」の茶器
(2005-9-2 於：ニューヨーク市立博物館
撮影：柳沢信芳)



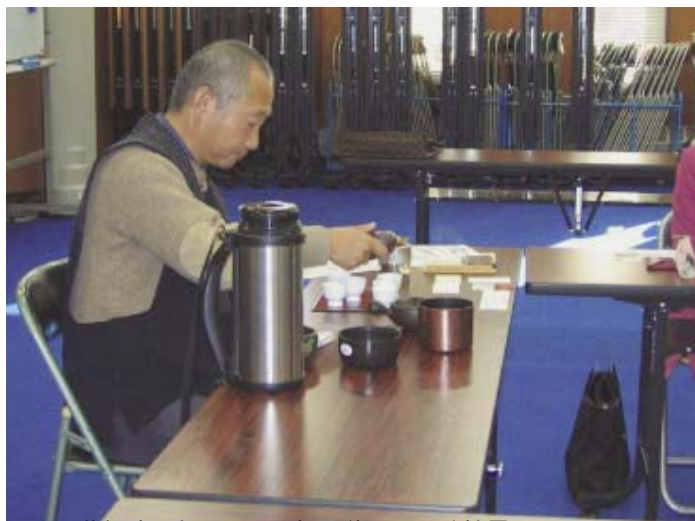
35. 19 世紀初期の銀製品：前列左にティーポット
(2005-9-2 於：ニューヨーク市立博物館
撮影：柳沢信芳)



36. 茶を飲む雰囲気を出す BGM 音楽の流れる店
(2005-02-23 於：台北市・茶楽園
撮影：柳沢信芳)



37. 茶芸館の茶請け菓子
(2005-2-23 台北市・竹里館
撮影：柳沢信芳)



38. 葉桐清一郎氏による極上煎茶の手前披露
(2004-12-11 於：静岡大学 撮影：森有世)



39. 茶文化振興イベント「世界お茶まつり 2004」
(2004-11-03 於：静岡市、グランシップ 撮影：大槻寛)



40. 新しいコンセプトの創作茶の品評会
(2005-11-17 於：グランシップ交流ホール 撮影：柳沢信芳)

研究発表とディスカッション



41. 懇話会での研究発表：向かって左から柳沢、大槻、小西
(2004-12-11 於：静岡大学 撮影：森有世)



42. シンポジウムにおけるディスカッション
(2005-7-2 於：グランシップ交流ホール 撮影：松下允彦)



43. 《茶歌ヴァリエ I》および《茶歌ヴァリエ II》 ピアノ演奏：柳沢信芳
(2005-7-2 於：グランシップ交流ホール 撮影：森有世)



44. 「茶歌イベント」開場前の準備
(2005-10-29 於：日本平動物園 撮影：柳沢信芳)



45. ロビーコンサート風景
(2005. 8. 6 於：静岡市健康文化交流館来てこ 撮影：川嶋治子)



46. サクソフォン四重奏による《茶歌ヴァリエ》演奏
(2005-11-17 於：グランシップ交流ホール 撮影：小西潤子)

新たな表現によるアートをめざして



47. 箏の講習「調弦法」の指導 (2006-2-14 於：静岡大学
撮影：柳沢信芳)



48. 箏の講習「特殊奏法」の実習 (2006-2-14 於：静岡大学
撮影：柳沢信芳)